

【(ESD)胃がん地域連携パス運用手順】

(ESD)胃がん地域連携パスについて、次のように運用させていただきますので、ご協力よろしく
お願いいたします。

1. 対象患者

広島大学病院で内視鏡治療を受けた、治癒切除、適応拡大治癒切除の方です。

2. パス導入時の連絡

患者さんに地域連携パス導入の同意が得られれば、担当医またはパス担当者より連携医療機
関の先生へ電話にて連携の依頼をさせていただきます。

3. 広島大学病院への定期受診など

(1)治癒切除の場合

術後3～6ヶ月後に内視鏡検査および血液検査を、連携医療機関で行って頂きます。その後は術
後1年毎に同様に検査を連携医療機関で行って頂き、2年毎に報告して頂きます。内視鏡設備の
ない連携医療機関の場合、当院で行い結果を報告致します。

(2)適応拡大治癒切除の場合※1

術後3～6ヶ月後の内視鏡検査および血液検査を、連携医療機関で行って頂きます。その後は術
後1年毎に内視鏡検査、血液検査、腹部超音波検査もしくはCT検査を連携医療機関で行って頂
き、2年毎に結果を報告して頂きます。内視鏡やCT設備のない連携医療機関の場合、当院で
行い結果を報告致します。

※1適応拡大病変(内視鏡根治度B(eCuraB))

腫瘍が一括切除され、切除標本が、①2 cm以下のUL0、未分化型癌優位でpT1a、②3 cm以下の分化型癌優位で
pT1b(SM1)(粘膜筋板から500 μ m未満)、のいずれかであり、かつHM0、VM0、Ly0、V0であった場合を内視鏡的
根治度B(eCuraB)とする。

ただし、②でSM浸潤部に未分化型成分があるものは内視鏡的根治度C-2とする。

【出典】胃癌ガイドライン第5版

4. 連携医療機関の先生にお願いする診療

- ①内視鏡治療後のPPIの投与を治療後2ヶ月間お願いします。
- ②ヘリコバクターピロリ感染患者の場合、治療後2ヶ月以降に除菌治療をお願いします。
- ③治療後1年毎に血液検査をお願いします。
- ④内視鏡検査や腹部超音波検査もしくはCT検査に関しては「広島大学病院への定期受診など」
を参照して下さい。

※採血データなどの診療情報を当院へ送付頂きますようお願いいたします。その際、貴院におい
ては、月1回を限度として『がん治療連携指導料300点』を算定することができます。(パス導入時に
がん治療連携計画策定料を算定したものに限り、がん治療連携計画策定料の算定有無に
ついては、連携開始時に患者さんごとに当院よりご連絡いたします)

5. パスの期間

治療後10年間です。10年経過後は地域連携パスを終了とし、基本検診、職場検診や人間ドック
を有効利用することとします。

6. バリエーション

- ①胃がんの再発や転移により連携困難と判断された時
- ②他病の病状悪化により連携困難と判断された時